

令和2年度第3回狭山市社会教育委員会議 会議録

開催日時	令和2年11月17日(火)			
	14時00分から16時00分まで			
開催場所	教育センター 大研修室			
出席者	西村委員	野村委員	吉田(徹)委員	高久委員
	八瀬邊委員	菅野委員	吉田(久)委員	横山委員
	平岡委員	福岡委員	今福委員	江頭委員
	角田委員	齊藤委員	黒川委員	小熊委員
	恵比須委員	中間委員		
欠席者	高橋委員	関根委員		
事務局	金子生涯学習部長	奥富社会教育課長		
	松川	山口		
	株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所			
傍聴者	0名			

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 第6回狭山市生涯学習基本計画の策定について

資料1「策定方針」について事務局より説明した。

(質疑・意見)

委員 資料に目を通したが、スマートシティ、SDGs、STEM教育など、流行りの言葉を取りあえず載せたというイメージで、狭山市としてどうするのか、計画の具体的な内容が分かりにくく感じる。

これは基本計画なので、理想を書かれていることはいいと思うが、具体的な取り組みについても明記したほうがいいと感じる。

事務局 現在策定中である狭山市総合計画の後期計画に含まれた内容を盛り込んだ形の策定方針としている。具体的な取り組み部分については、計画の素案の中に明記していく予定である。

議長 今回の新しい計画は、今まで別個にあった教育振興基本計画に生涯学習基本計画とスポーツ振興計画を包含した計画とするため、生涯学習の取り組みが埋没しないか危惧している。

事務局 基本的には、今回の生涯学習基本計画で掲げた内容は、今までも教育振興基本計画の中で位置づけられてきたもの、さらに狭山市総合計画の中で位置づけられてき

たものである。表記の仕方、表記のボリュームについては、配慮しながら進めたい。

委員 生涯学習基本計画が教育振興基本計画の中に入るのはいかに賛成である。教育振興基本計画の中に生涯学習基本計画を入れることで、教育の一環としての生涯学習という自由度が生まれるのではないかと思う。総合計画市民会議でも、上位計画である狭山市総合計画の資料となるのは教育振興基本計画であり、生涯学習基本計画の中からはいいキーワードは残そうとしている。

資料 2-1 「第 3 次狭山市教育振興基本計画（骨子案）」について、事務局より説明した。

（質疑・意見）

委員 11 ページの「②学級数の現状」で、支援学級の学級数や人数が書いてあるが、支援学級の支援内容は、自治体や学校によって違う。今回の資料では、障害の内容が具体的に書かれていないので、実際の支援の状況は見てこないと思う。

教育振興基本計画の中でも「支援」が大きく項目としてうたわれているので、狭山市としてどのような支援ができているのかが分かるといいと思う。狭山市ではほとんどの小学校に支援学級があるが、支援の内容や不足している部分を具体化し、明記するべきだと思う。22 ページに記載されている「コミュニティ・スクール」についても、既にスタートしている地域と、まだスタートしていない地域がある。コミュニティ・スクールや地域学校協働本部は、先生方の負担を減らして、より良い教育に力を入れてもらうために必要である。保護者や地域が参加、協力をして、地域みんなで子どもを育てようということだが、保護者や地域、学校だけでは難しいことも多いと思うので、市に率先して実施に努めていただきたい。また、地域学校協働本部として学校や地域を中心とした地域で子どもを育てる体制も加えていただきたい。

事務局 1 点目の特別支援学級の関係は、狭山市も確実に進めている。計画をもっと具体的にすべきではないかというご指摘は学校教育部に伝える。

事務局 地域学校協働本部については、平成 30 年度に社会教育委員会会議からも提言を頂いているので、力を入れて取り組みたい。学校教育部とも連携しながら、スピード感を意識して行いたい。

委員 特別支援教育については、次期計画の第 4 章に施策 4 として盛り込まれているが、現状と課題、施策の方向性は、第 2 次狭山市教育振興基本計画と書きぶりが同じである。

事務局 所管にその旨を伝える。

委員 次期計画の策定にあたっては、状況と課題について分析を深めたうえで施策を織り込んでもらいたい。

事務局 今回の資料は庁内の検討委員会等で検討する、いわばたたき台でもあるため第 2 次狭山市教育振興基本計画と内容が重なっているものがあることは承知している。次回は、もう少しまとまった形にしたい。

委員 現状を分析して、課題を明確にして、次にどうするかを考えるのが計画を作る意味だと思うので、目的意識を持ってやっていただきたい。

コミュニティ・スクールや地域協働活動は教育委員会が一体的に進めていくものだと思うので、学校運営協議会や、コミュニティ・スクールを今後どのように組織し運営していくのかを考えていてもらいたい。地域で学校を支援しようという体制を作っている動きに合わせて、学校側がそれを活用できるようにしてもらいたい。コミュニティ・スクールの設置は努力義務なので、教育委員会として実現する姿勢を示してもらいたい。

委員 狭山市には狭山市学校支援ボランティアセンターという組織があるので、学校教育の分野でも活用していてもらいたい。

委員 狭山市学校支援ボランティアセンターのメンバーでコミュニティ・スクールの委員として参加している方から聞いた話だが、実際の行動に移すのに色々な制限があり難しいと聞いている。また、別の地区は、小、中学校に分かれて話し合った要望をコミュニティ・スクールに提案し、来月から実際に動く予定になっている。コミュニティ・スクールの委員会や学校によって違うとは思いますが、他の地区もこれから徐々に動いていくと思う。

委員 学校側の取り組みであるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動が一体的に動いていかないと成果が出てこないなので、学校教育部と連携して進めてほしい。

議長 コミュニティ・スクールの現状はどうか。

委員 堀兼地区では、学校評議員という形でやっている。狭山市学校支援ボランティアセンターの活動状況は、8月から学校で会議を持ち、コーディネーターとコロナ禍であっても活動できるものはないかという話し合いを重ね、子どもと接触しない後方支援の形で、別室で子どもたちがやってきた課題の丸付けをしたり、授業の前にミシンの準備をしてもらったりしている。

先ほどの話を聞くと、それぞれの校長、地域、コーディネーターの考えで支援の仕方がまちまちのようである。学校としてはコロナ禍ではあるが、コミュニティ・スクールの目的から考えればこういう時だからこそ助けていただきたい部分があると思う。学校間で差が生じることが無いようにコミュニティ・スクール、狭山市学校支援ボランティアセンターなども、ある程度全体の方向性を示していく方がいいのではないか。

議長 市としてコミュニティ・スクールにどう取り組んでいくのか、方向性をはっきり出したほうがいいと思う。

委員 3ページの「計画の対象」の図は、生涯学習の範囲であり、ここで取り扱うべきなのは教育振興計画の対象範囲である。表現方法を検討してもらいたい。

事務局 検討する。

委員 今までの教育振興基本計画には載っていないのか。

事務局 載っていない。

委員 全体的に文言の統一がされていないところが見受けられたので、統一したほうが

いいと思う。また、文中の表現についても誤字、脱字、表現方法に違和感を覚えるところがあったので、校正については慎重に行ってもらいたい。

委員 50 ページの基本目標Ⅴが、第2次と一言一句同じなのは残念である。今回の計画が狭山市の教育の基本になるのであれば、社会の要請に応じて、その都度対応できるような言葉や、時代に合わせてどうとでも読み取れる目標も大事だと思うが、5年ごとに変えていく時に、この5年に何をやるのかという具体的なものが入るといいと思うし、そのためにアンケートを取っていると思う。

新たな計画を策定しているのであり、狭山市の今後5年間の意欲が見えるものや、大きく変わる社会の現状を書いているにも関わらず、基本目標が前回と同じことというのは残念である。社会の要請も、形式的な記載でいいので少しでも変化があると、変わっていく意欲が見えていいと思う。

事務局 第3章は、教育振興基本計画の基本理念、基本方針、基本目標を掲げるという位置付けをしている。更新にあたっては、総合教育会議において、基本理念と基本目標の確認を行っており、それぞれの下の記事は変える必要があるだろうという議論はあった。今後5年間を見据えた中で、全く変わらないというイメージを持たれることのないよう文章内容は検討したい。

委員 基本目標Ⅳの「地域とともにある学校づくり」という文言は前回入っていなかった。どういう経緯で出てきたのか聞きたいところである。色々考えて新しい方針が出されているが、基本目標が変わっていないので、ご検討いただくと私たちの議論も前向きになると思う。

議長 48 ページに「網掛けの部分は新たな情勢や考え方を踏まえて更新していく予定」と書いてあるが、どういうタイミングでどういう形で更新するのか。

事務局 次の総合教育会議までに検討する。それにあたって、会議で頂いた意見を取り込んでいく。

議長 1年後に状況が大きく変わった場合は、変えることはあり得るのか。

事務局 計画の前提となるものが大幅に変われば、変えていかなければいけない。

議長 コロナによって世界が大きく変わって、1年後の状況が分からない。そういう中での計画なので、絶えず状況を見ながら変えていく気持ちも必要だということを頭の中に置いておいてほしい。

委員 66 ページの「生涯学習活動の支援体制の充実」の現状と課題で、「公民館の利用者は高齢者が多くICT、ネットワークが効果的に活用されていないケースも少なくない」と分析されているにもかかわらず、施策はICTの活用、ネットワークを広めていくということで、公民館の活用に関しての解決策になっていない。どのように分析したのか。

事務局 高齢者の方への対応では、アンケートの結果でも、紙ベースの情報の伝達との併用が必要と考えられる。施策の方向性では、紙ベースも含め、さまざまな媒体の活用、活用できる環境づくりも含めて、一体的な取り組みの中で取り上げていくことが課題と認識している。

委員 高齢者のICTの利用率を高めていく公民館の活動は、考えていないのか。

- 事務局 デジタルデバイドの問題については対応を考えていきたい。
- 委員 生涯教育の成果を公民館等の施設の利用人数で判断しているが、それが豊かな社会につながるという判断でいいのか。生涯教育とは、自分で取り組んでいくと書いてあるにもかかわらず、受け身の教育となっているように感じる。数だけではなく教育の内容も大事だと思うが、どう分析しているのか。
- 事務局 教育の内容を数値で測ることは難しい。何らかの形で生涯学習施設に関わっていただければ、その中で意見をいただいて次に活かすことができると考えている。
- 委員 ものを分析する場合に定量分析と定性分析があるが、ほとんどが定量分析で終わっていないか。
- 事務局 成果を目に見える形にしようとするとな数値的なものを求められることが非常に多いが、それだけで何かを測るべきではないと思っている。ただ、事業を進めていく中で、何をもって対外的に分かってもらえるように示すのかは悩ましいところであり、大きな課題として捉えたい。
- 委員 5ページの「4 教育をめぐる情勢」に、「超スマート社会」や「グローバル化」という言葉が出てきた中で、18ページの「小学校においてもプログラミング教育を推進し」というのが一つの対応で、49ページの基本目標Ⅲの「子供たちの情報リテラシー」につながっていくと思うが、子どもに機器を与える親や地域の人が「情報リテラシー」を良くわかっていないと感じる。家庭や地域に対しても生涯学習を展開することが重要だと思う。
- 事務局 年齢に関わらず誰でも、ICTに関する知識・技能の底上げを図る機会が必要だと思う。GIGAスクールが始まって、子どもたちに1人1台端末が配られると、家庭での意識も変わってくるのではないかな。ご意見を参考に対応を検討したい。
- 議長 子どもだけではなく、自治会みんなでパソコンやスマートフォンの勉強をやらないと、全体の底上げはできない。そういう時代になったことを肝に銘じなくてはいけない。
- 事務局 各公民館で、パソコン教室やスマートフォンの講座もやっているが、方法や、対象をどう広げていくかは課題だと思う。いただいたご意見も踏まえて検討する。
- 委員 コロナ禍になって、パソコン教室をオンラインで開催しようとしても実際には実施できず、今まで勉強してきた内容では不十分だったことが分かった。今後は時代に即した勉強にしないといけない。
- 議長 他市町村の計画や目標を見ると、SDGsについて取り入れている所があるので、狭山市もそれぞれの施策について、SDGsとどう関わっていくのかをはっきりさせたほうがいいと思うので、ぜひ取り組んでほしい。
- 委員 SDGsやグローバル社会という言葉をもっとうまくこの中に活用できたら、より未来に向けての子どもたちのわくわく感が上がるのではないかなと思う。
- コミュニティ・スクールと狭山市学校支援ボランティアセンターの話に戻ると、ある小学校では、話し合いで、学校と何ができるのかという方向に行っている。狭山市全体で、みんなでというのも統一感はあると思うが、地域差やコロナの感染状況も違うので、今は、それぞれの学校でできることをやっていく方向がいいのでは

ないかと思う。

小さな子育て広場の支援員の立場で話をするが、0歳から3歳の親子を対象に子育て支援をコロナ禍でもやっていて、これも生涯教育の一環であり社会教育としての一部分も担っていると感じた。

委員 活発な議論をされていて、こうやって狭山市の教育について考えられているのだと知って勉強させていただいた。

委員 私はPTAで保護者、中学生、小学生の親でもある。親がネット環境やICTを知らないと子どもが対応できないので、その辺を踏まえて進めていかなければまずいと思う。15 ページに、「家庭の教育力を高めるために行政に支援を期待すること」というアンケートがあるが、子どもが育つと一緒に親も学んで育たないと子どもの成長にはつながらないと強く実感している。このアンケート結果を見ると、実際に自分が足を運んで何かを得るのではなく、ホームページでニュースを見るかのように得たいと思っている人が圧倒的に多いので、これが逆転するような状況をつくるのが、家庭の教育力を高めるための目標になると思う。子どもが育っていけば、その子たちが大人になったときには、生涯教育が総合的に良くなってくると思う。「育てる」という言葉が大事なキーワードになると思って共感した。

委員 3ページの「生涯学習とは」と書かれた説明がとても分かりやすく、知らない人に説明するとき、こういう形で伝えればいいのだと思った。

中学校の学校運営委員をやっているが、今年から市内3校でコミュニティ・スクールが始まった。1学期に第1回会議があって、以来文化祭や体育祭、音楽会、狭山台小の10周年の行事などには参加したが、それ以外の活動がないままここまでできてしまっている。

委員 たくさんの新しい言葉が計画に出てきているので、それを活用できるような、狭山市としての夢の詰まった計画に関わられて良かった。ネットワークも活用できるように、より良くなってもらいたい。

委員 幼稚園、保育所で、障害のある子や発達障害の疑いのある子の受け入れが増えてきている。「施策4 特別支援教育の推進」の取り組みの「3 幼稚園における支援の充実」に、「個に応じた適切な指導を充実させます」と書いているが、対応に悩んでいる先生もいるので、先生や保育士に対する専門的な研修、または専門職とつながって援助してもらおう方法も入れていただきたい。

委員 一般の受け入れをしている教員や保育士に対しての専門的なアドバイスや研修も必要だと思うので、お伝えいただきたい。

委員 66～68ページの施策について、施策1が「つなぐ」、施策2が「学ぶ」、施策3が「活かす」となっており、分かりやすくいい表現だと思う。この文言はこれからも出てくるのか。

事務局 新たな計画（案）には載せていないが、1つの計画として統一的な対応の必要があることから検討する。

委員 コロナの感染に関係して、偏見により他人の人権を無視するような事例が発生していると聞く。人権については子どもの頃から学んできたはずなのに、そういうこ

とをやる大人がいる。子どもは道徳や人権教育をやっているが、大人は忘れてしまっている。生涯学習の基本方針の中に、そういう理念を少し強めに入れてもいいのではないかと思った。

議長 いい要望だと思う。我々は、幾つになっても学ばなければいけない。

委員 学校教育部門と社会教育部門のつながりはどんな状況なのか。計画を一本化することにあたって、普段のコミュニケーションは、どのように行われているのか。

事務局 業務の中で連携はしている。

議長 今日も社会教育課関連以外の意見もたくさん出たので、教育委員会で共有していただきたい。

委員 先ほどから教育の中に「地域」という言葉がたくさん出てきているが、今、地域が崩壊しつつあるのではないかと危惧している。今後、生涯学習を考える中でも、地域についてはもっと考えていくべきだと思う。

議長 自治会もPTAも入会者が減少し、入ることによるメリットは何なのかと言われるケースがある。パブリックとは何かを考えるべき時ではないか。パブリックの精神は、最終的には教育していくことが必要だと思う。その辺の概念が足りていないのではないかと思う。

委員 自治会や地域は災害時に対応をするためだけのまとまりではないので、そういう教育も必要だと思う。

議長 今、地域で何が起きているのか、我々自身がどういうふうやっていったら良いのかを、今後皆さんで話せる時間を取りたいと思う。

第6次狭山市生涯学習基本計画についての議論は、終了する。骨子なので粗削りだが、今日の意見、議会の意見、パブリックコメント等を見ていただいて、いいものを作っていただきたい。

## (2) その他

事務局 教育振興基本計画の策定にあたり、市民の様々なジャンルの方を迎えて狭山市教育振興計画策定市民検討委員会を立ち上げる。社会教育委員会議から議長に代表でご参加いただきたいと考えているので、ご承知いただきたい。

議長 今日のような意見をその場で述べたい。フィードバックをする。

入間地区の社会教育委員部会に出席してもらっている委員から、最近の様子を話していただきたい。

委員 社会教育委員部会は、13の市町から社会教育委員が1人～3人参加して会議をしている。これまでの3年間、研修会の企画をするための会議と思って参加し、関わってきた。社会教育委員が、各市でどのように社会教育や生涯教育を考えているのか情報交換をすべきではないかという提案をして、各市から状況のレポートを出して、それについて突っ込んで話し合うことが決まった。その後、コロナがまん延したので、生涯教育、コミュニティ・スクールなどの分科会を作って少人数で集まってはどうかという提案があり、明日、話し合いをする。次回の会議では他市町の現状の

話ができると思う。

議 長 他の市町の取組は参考になるので、次の委員会に期待している。

委 員 社会教育に対する各市の捉え方が微妙に違うので、考え方についても探ってみたい。

議 長 入間地区の13市町が一体となり開催している生涯学習フォーラムは、社会教育委員、公民館、図書館など色々な組織で行っている勉強会だが、本年度は、令和3年2月25日木曜日に行われる予定である。コロナ禍で、坂戸市の本会場は、参加者を3分の1に制限する他、サテライト会場をいくつか用意して、リモートで結んで行う準備をしている。

#### 4 閉会